

2014 年度 第 4 回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成 26 年 12 月 1 日(月) 13 時 00 分～16 時 00 分
2. 場所 建築会館
3. 出席者 多田元英, 一戸康生, 稲岡真也, 岡崎太一郎, 岡本哲美, 向野聡彦,
(敬称略) 河野昭彦, 澤本佳和, 吹田啓一郎, 田川泰久, 竹内 徹, 田中 剛,
玉井宏章, 寺田岳彦, 中込忠男, 成原弘之, 西山 功, 原田幸博,
平島岳夫, 藤田正則, 増田浩志, 緑川光正, 見波 進, 宇佐美徹(記録)
欠席:井戸田秀樹, 越智健之, 笠井和彦, 木村祥裕

4. 配付資料

- 04-01 2014 年度第 4 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
04-02 2014 年度第 3 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
04-03 2014 年度第 3 回構造本委員会議案(多田主査)
04-04 2014 年度第 3 回鋼構造座屈小委員会議事録(案)(井戸田委員)
04-05 鋼構造接合小委員会(増田委員)
04-06 2014 年度第 3 回鋼構造制振小委員会議事録(案)(緑川委員)
04-07 鋼構造耐火設計小委員会第 22 回議事録(案)(平島委員)
04-08 鋼構造環境小委員会 2014 年度第 6-8 回議事録(藤田委員)
04-09 2014 年度第 4 回鋼構造素材小委員会議事録(案)(見波委員)
04-10 2014 年度鋼構造塑性設計小委員会第 3 回議事録(案)(玉井委員)
04-11 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG 第 7-8 回議事録(岡崎委員)
04-12 鋼構造設計規準に関する要議論事項および英語版原稿(岡崎委員)
04-13 2015 年度大会 PD 資料(吹田委員)
04-14 質疑回答の一覧(井戸田委員)
04-15 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会設置申請書(岡崎委員)
04-16 鋼構造運営委員会全体の 2015 年度予算(旅費)申請額(多田主査)

5. 議事内容

- (1) 次期運営委員会委員長選挙について, 多田主査が再選された旨が報告された。
- (2) 資料 04-02 に基づき前回議事録の確認がなされた。
- (3) 資料 04-03 に基づき多田主査より構造本委員会の報告がなされた。
- ・ 次期構造本委員会委員長は緑川委員が再選された。
 - ・ 2014 年度大会の報告があり, 鋼構造の PD 参加者は 174 名であった。
 - ・ 小委員会主査は, 2014 年度小委員会活動報告を 2/13 までに本委員会に提出のこと。
 - ・ 2014 年度運営委員会活動報告は多田主査が 2/28 までに本委員会に提出する。
 - ・ 2015 年度運営委員会の予算 406 万円(前年 393 万円)となった。小委員会の分配は主査とメール審議で実施する。(資料 04-16 参照)
 - ・ 2015 年日本建築学会大賞業績候補に川口衛先生と松井千秋先生を構造本委員会か

ら推薦した。

- ・ 2016 年学会賞選考委員会委員(論文部会)候補に中込忠男先生を推薦した。
- ・ 2016 年日本建築学会奨励賞選考委員会委員候補に安村先生(静大), 辻先生(京大), 坂田先生(東工大)を推薦した。
- ・ 英語版鋼構造規準の査読者は大崎先生(広大)と森先生(名大)となった。

(4) 資料 04-04~04-11 に基づき各担当委員より小委員会および WG の報告がなされた。

座屈小委員会(資料 04-04, 竹内委員(井戸田委員代理))

- ・ 筋かい, 骨組(DM), スペースフレームの章には設計例を盛り込む。
- ・ 来年度一杯を目途に原稿案を作成する。
- ・ 従来 of 塑性率による変形性能評価以外の方法を検討してはどうか, 手段等(例えば 運営委員会の WG 等で検討)の議論がなされた。

接合小委員会(資料 04-05, 増田委員)

- ・ 高力ボルト接合設計施工ガイドブックは, 12 月中旬に本委員会査読に移行する。
- ・ 2015 年 10 月に東京・大阪で講習会を開催する旨を刊行企画書として提出した。
- ・ 鋼構造柱脚 WG の委員として古谷一美氏(フケタ設計)の依頼があり, 承認された。
→事務局に確認して手続きを進めること。(多田主査)

制振小委員会(資料 04-06, 緑川委員)

- ・ 11/21(東京), 11/28(大阪)で講習会を開催した。東京:226 名/定員 220 名, 大阪:126 名/定員 200 名で, 全体で 84%の参加があった。
- ・ e-ラーニングの対象講習会になったので, 今後事務局から連絡があると思う。

耐火設計小委員会(資料 04-07, 平島委員)

- ・ 2015 年 9 月にシンポジウムを企画している。
- ・ 指針の 6.8 節に火災時における架構のリダンダンシーを、6.10 節に合成梁の崩壊温度を新設した。
- ・ 高温素材データを鉄鋼連盟に依頼している。
- ・ 温度解析の委員が少ないので, WG の立ち上げを検討している。

環境小委員会(資料 04-08, 藤田委員)

- ・ 出版物の書名を構造本委員会(および事務局)の指摘を受けて, 「環境に配慮した鋼構造リユース設計指針(案)」から「鋼構造環境配慮設計指針 一部材リユース」に変更する旨, 小委員会での検討結果が報告された。
- ・ サブタイトルのある指針名は少ない。(多田主査)
→次回の指針を見据えている。(藤田委員)
→”部材リユース”は Member Reuse”とする。
- ・ 運営委員会での議論の結果, 小委員会から報告の上記書名で妥当であろうとの結論に至った。
- ・ 書名変更届が必要なので事務局へ提出のこと。

素材小委員会(資料 04-09, 見波委員)

- ・ 今後の活動方針と役割分担を決めた。

塑性設計小委員会(資料 04-10, 玉井委員)

- ・ 指針の出版は当初予定の 10 か月遅れとなる。
- ・ 梁のデータベースは座屈小委員会と相互にやり取りする方針である。

鋼構造関連規準・指針の英文化 WG(資料 04-11, 岡崎委員)

- ・ S 規準の不備の洗い出し等も作業しており, WG から小委員会に変更したい旨が多田主査より提案され, 承認された. 設置申請書は本委員会へ提出済み. (資料 04-15 参照)
 - ・ 運営委員会の査読者は笠井委員, 木村委員とする.
- (5) 資料 04-12 に基づき岡崎委員より鋼構造設計規準の英文化作業で WG から運営委員会への質問事項に対して議論がなされた. (前回の続きであるので質問番号は 11 から)

質問	回答	質問	回答
11	追記内容とする.	12	形鋼は開断面, 角形鋼管は閉断面とし, 対称断面であることを追記.
13	or とする. non-solid web は解説が必要	14	約案とする.
15	再検討のこと.	16	意識する.

- ・ 教科書的な解説は削除するが, 解説をわかりやすくする図は残す.
 - ・ 日本語版の正誤に関しては, 英語版完成後, 少し時間をおいてどうするか考える.
- (6) 資料 04-13 に基づき吹田委員より 2015 年度大会 PD について説明がなされた.
- ・ 大会 3 日目の AM を第一希望, 2 日目の PM を第二希望とした.
- (7) 資料 04-14 に基づき学会図書の質疑回答について, 田川委員に関連する項目の補足説明がなされた.

6. その他

- ・ 2015 年度委員の解嘱, 委嘱
鋼構造環境小委員会主査(解嘱:藤田正則氏, 委嘱:兼光知巳氏)
鋼構造塑性設計小委員会主査(解嘱:玉井宏章氏, 委嘱:五十嵐規矩夫氏)
- ・ 災害委員会委員の運営委員会担当は宇佐美とする.
- ・ 今後の重点審議は次の通り.
 - ◇ 2014 年度第 5 回運営委員会:素材小委員会
 - ◇ 2015 年度第 1 回運営委員会:接合小委員会
 - ◇ 2015 年度第 2 回運営委員会:座屈小委員会
- ・ 次回の運営委員会の日時, 場所は以下の通り.
 - 第 5 回 2015 年 3 月 18 日(水), 13:00-17:00, 於:建築会館